

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

産学連携3D教育プロジェクトシンポジウム開催報告

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

『大学の学びは「働くチカラ」に直結する』

8月5日開催のシンポジウムはこの題目での藤村教授講演から口火が切られた。そこでは20歳代の育成には大学と企業とが分業関係での連携を持ち、社会に役立ちたいという使命感を育むことが大切とまとめられた。その中で現場が求めている人材には、素直に取り組む姿勢・我慢強く取り組む姿勢・前向きに学ぼうとする姿勢が必要と強調された。

働く力を育成する関連科目紹介

3人の特任教員それぞれが担当科目の紹介を行った。

鈴木教員「キャリアデザイン入門」:統計学・情報学・経営学・コンプライアンスという学問毎の能力要素を前提としたキャリア教育、評価方法の実践を導入。

有田教員「キャリアデザイン入門」「企業と経済の動向」:「自分を知る」「現場を知る」ことから「相手目線を意識出来る自分」を目指す教育、大勢の受講生を惹きつけるコツを披露。

白井教員「就業力基礎力養成」「就業力応用力養成」:企業と連携、授業全体を会議と捉えて調査・研究の土台作りを報告書作成から学ぶ教育、反復とフィードバックに重点。更に評価と成果の見える化も導入。

プロジェクトの取り組み

机上の2次元学習を現場の3次元学習へ展開する3つの取り組みが紹介された。

1. 教材ビデオ

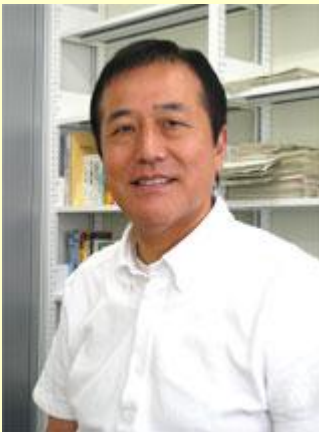
座学では体感しにくい「働く力」の理解促進に効果。昨年度完成の2本を紹介、制作協力を得た長瀬産業㈱からも論評をいただいた。シリーズ4本が整ったが最終10本整備を目指す。大学連携(水平協力)のよる教材活用に加えて、産学連携(垂直協力)による人材育成への活用も。

2. 催事型インターンシップ

会社の仕組み理解とチームビルディングの目的に叶う取り組みが実施された。一方、学生達は自分たちの思いつきだけでは売れないことを実感し、準備や地域社会人との理解の大切さに多くの気づきを得た。しかし、キャリアモデルが不在である事や大学祭販売のノリであったことなどの課題が浮き彫りになった。

3. アセスメントツール HAT(Hatarakuchikara Assessment Tool)

働く力に求められる特性と発揮能力を測定するツールの完成が報告された。自身の強味と弱味の確認と初対面のグループでの働き掛け力が測定・フィードバックされる。評価者(アセッサー)育成プログラム開発も始まり、今後は実施データの蓄積が求められる。大学のみでなく、企業の内定者や新入社員の受検にも拡げていきたい。



略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70~06年 伊藤忠商事㈱勤務

06~11年 帝京大学

法政大学職員

11年~ 法政大学教員



略歴 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84~89年京都大学経済研究所助手、90~97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年~03年法政大学経営学部教授、04年~IM研究科教授。

大学教育に求められているもの—真の産学連携とは？

教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)

産学連携が至るところで叫ばれています。大学は大学、企業は企業といった具合に、別々に20歳代の育成をするのではなく、両者が連携していくことは喫緊の課題です。◆では、どのような産学連携が求められているのでしょうか。この問いに対する答えは、まだ確定していません。産業界の一部からは「即戦力になる人材が必要だ」という声が聞かれます。これは、どちらかというと専門学校が得意とする分野であり、この声を重視すれば、大学教育も専門学校的になるのがよいということになります。◆他方、「目の前の問題に一喜一憂するのではなく、大局観をもってわが社の将来を担ってほしい」という声も聞かれます。この声を重視すれば、一般教養や専門分野の基礎教育が重要だということになります。大学として、どちらを重視するかは、その大学の教育方針に関わることであり、大学の生き残りがかかっています。◆いま求められているのは、産業界と学界が正面から向き合って、それぞれのホンネをぶつけ合い、議論することです。そういう場を創り出していくことに、私たちのプロジェクトは貢献したいと思っています。



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)修了後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。2011年3月、同博士課程中退。

主体性の芽

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

米国の名門ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学の授業がネット上に無料配信され、世界のどこにいても学ぶことができる社会が訪れました。さらに人々を驚かせたのは、このオンライン講義において満点をとった1人にモンゴルの15歳の少年が含まれていたことでした。MITは、そうした優秀な学生に対して受験を勧めるそうです。私たちの大学内にある様々なチャンスをモノにする学生も、こうした主体性のある学生なのでしょう。学びにおいても、あるいは生き方においても、人々の主体性を前提とした社会が形成されつつあるように思います。ここでの問題は、主体性の無い学生に対して、教育機関はどう働きかけるべきか、ということだと思います。この点について、前期の授業実践を通して私が得たことは、リフレクションの重要性です。もちろん、全ての学生に有効だったわけではありません。しかし、リフレクションによって、学生の多くは授業に対して目標が生まれているようです。こうした主体性の芽を大切に育てていきたいと思っています。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

成果の上がるクラスの理由

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

春学期(前期)の「キャリアデザイン入門」の成績採点が終了いたしました。この科目は3クラスを同内容で行っておりますが、上位成績の取得率には約2倍という大きな開きが現れました。好成績のクラスとそうでないクラスの最も大きな違いは履修人数です。前者が70名で後者は147名と2倍の開きがあります。

この成績差の違いの原因を考えると、私の授業の進め方がインタラクティブに行われているからだと思います。本年度はリアクション・ペーパー等のフィードバックを重点的にを行い、学生との質疑応答も増やしました。そのため、少人数であるほど、1人あたりの学びは多くなるのです。更に、大人数になるほど集中力も低下致します。授業は少人数の方が良いのは当たり前のことですが、今後は大人数授業でも如何に成果を出すかということに挑戦します。

◆ 秋学期の取組み

当プロジェクトの秋学期以降の取組みについてご紹介いたします。

- ・8/6に本学にて実施いたしました「働く力測定アセスメント」は、連携18大学からも参加者を募り、9/12に再度実施いたします。
- ・インターンシップは「催事販売型」ではない別のスタイルのプログラムを企画中です。
- ・今年3回目を迎える「就業力養成ゼミ」は、市ヶ谷キャンパスを鈴木講師が、多摩キャンパスを有田講師が担当します。

加えて教材DVDの続編の制作にも取り掛かります。まだまだ他にも企画中です。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

◆ 編集後記 :

最近、大学生の間で「お散歩サークル」が流行っているようです。メンバーとおしゃべりをしながら、ただ歩く。もちろんその後の飲み会などありません。お金をかけずに楽しむのが最近の若者の中ではかっこいいらしいです。ひと昔(ふた昔?)前ならば当然クルマでドライブだったことでしょう。大学生でクルマを持つ者と持たざる者の差は駿河の富士と一里塚でした。中には下宿の家賃より駐車場代のほうが高いなんて人もいましたね。あの頃はみんななんでそんなに無理してまでクルマを持つことに執着していたのかと思います。そういう意味では見栄よりも実を重視する今の若者はきっと人として進歩しているのでしょう。でも昔の若者は一見無駄なことでもやってしまうようながむしゃらさがあつたような気がします。日本の若者に元気がなくなったと言われて久しいですが、果たして本当に元気がないのか単に落ち着いてきただけなのか、昔を知る人だけの基準では計れません。さて夏休みももう終わりです。今の若者が家庭を持つ頃にはきっとお盆の帰省ラッシュの渋滞も大分緩和していることでしょうね。 << 事務局:平山 >>

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>